



## 3年食品経済コース 6月キャリアトライアル 「ことばの力」トライアル

石田 明日香

今回の集中実習は、全体的にととてもきつかったです。正直この一週間「学校に行きたくない」と毎日思っていました。1限～6、7限までずっと立ちっぱなしで実習をし、放課後は来週の近畿大会に向けてヨットを頑張っ、体力的にも精神的にもとても辛かったです。しかし、学校を休んでしまえば負けた気がするので頑張りました。

私の一番の課題である「コミュニケーション」は、将来の夢である理学療法士や作業療法士には必要不可欠なので、しっかりとコミュニケーションをとれるようになりたいです。たくさんの人に頼られる人でありたいので、人を元気にしてあげられるような明るい人になりたいと思います。

大石 翔馬

お弁当の試作実習は、オリジナル性を出さなくてはいけないということでも悩みました。その時のアイデアとして役立ったのが、家族の意見でした。家に帰り祖母にカレーを食べるかと言われた時に、ハンバーグにカレーを合わせれば良いのではないかと閃きました。そして、次の日の実習で試してみました。自分の納得のいく味にはなりませんでしたが、ある程度は好評で良かったと思います。ただし、残念だったのはソース以外のものは他の班とかぶっていたことです。そこも工夫しないとオリジナル性の高いものは作れないと思いました。

将来もし、新商品を開発する立場になったら、こんな気持ちなのだろうなと思いながら試作をしました。

唐澤 惇輝

私が、食品経済コースに入った理由は、「就職しやすそう」という単純な考えだった。

二年生の頃の実習は、「数さえできればいい」というような気持ちだった。しかし、三年生になり担当が毛戸先生に変わりとても厳しくなった。それまでの考えが甘すぎて、はじめ実習がとても嫌いだった。そして、気持ちを切り替えられないまま集中実習に入った。案の定、一日目からきつく怒られた。

しかし、それがきっかけで気持ちが切り替わった。集中して取り組むと時間が大幅に短縮され、「全員で協力して必死に取り組む楽しさ」に気づくことができた。それが一番に得たことだと思う。食品経済コースに来て良かったと思った。しかし、課題が多くあるので改善していく。

小林 裕也

今回の集中実習での一週間は、社会で働いた時のほんの一部。朝から働き、休憩を挟み昼から働く。夕方からは部活。一日八時間以上働くのが当たり前になっていく。今で「しんどい」というのは間違え。これから先、やっていけなくなる。正直「しんどい」と思うこともあったし、実習も部活も嫌で、楽をしてしまったこともあった。大変だけど小学生と交流給食をして気持ちが変わった。自分たちが時間をかけ過ぎたすり身だったが、小学生は美味しいと言ってくれた。交流が楽しくて疲れが飛んだ。

実習で、特に力を入れたかったのが弁当の試作。何かを開発するようなことが好きで、自分の満足するものを作りたかった。もう一度、機会があるなら作りたかった。

林 修平

今回の実習で得た「段取り」という力は実習以外の場所でも役に立つものでした。部活でも用意出艇、帰艇、片付けまでの間に段取りをしっかりしておくことも早く終わり、作業の効率性が上がっていることがわかりました。今回の実習の中で、最も印象強かったのはパワーポイントの作成、発表でした。三人が意見を出し合い、それを実際に形作り上手く繋ぎ合わせていくのがとても困難な作業となり、発表でも途中で噛んでしまうなど、まったく出来ていませんでした。

これから企業に入っていく、資料の作成や技術や商品のプレゼンの発表をしていかなければならないので、今回の失敗を反省し、次はよりよい発表ができるようになりたいと思いました。